通信稲穂 27 号

2012 年 8 月

発行
〒　399―8501
住所　　長野県北安曇郡松川村 627
氏名　　宮田兼任（かねとう）
TEL　0261.62.8630　090.2431.8817

農薬を使わない稲作り、13 年目の夏
今年の田んぼ･･･

今年の田植は種まきの一部やり直しと田植機の故障も続き「悪戦苦闘」という感じでした。我が家の種まきは 5 回に分けて行いますが、3 回目と 4 回目にまいた種が半分以上発芽しませんでした。育苗ハウスの中は今までに無く温度が上がり発芽障害を起こしてしまったようです。苗は無農薬の稲作りに適した「ポット式」の大苗なので周辺では誰も扱っていません。数百枚の苗を他所から調達して来る事は不可能です。まき直すのは大仕事ですが、“やるしかない”のです。天に向かって祈りました。今度は順調に発芽してくれました。本当に貴重な経験です。ともあれ苗は立派に育ち一安心。ところが今度は田植機が後半から故障が続き結局植え付け不能になってしまいました。その為いつも技術交流している隣町の有機農家から田植機を貸して頂き何とか田植を終わらせる事が出来ました。
植え付けた苗の様子は毎日早朝見回ります。梅雨明けは遅れ気味の稲も猛暑で成長が追い着きました。そして恒例の「悩ましい」雑草ですが、田んぼによっては除草を繰り返したのに草に負けてしまった所もありますが、全体としては昨年より好調です。皆さんに食べていただく量は十分取れそうな事が解ったので本当に安心しているところです。それにしても今年の様に問題が起きた年は初めてで、心身ともに結構疲れました。ひたすら粘り強くやり通せたのは最低必要量の米は絶対確保したいと言う思いと、いつも指示通り動いてくれた後継者の娘が 4 月から加わり大きな力になった事です。
それから壊れた田植機ですが 13 年間酷使に耐えました。これからは“乗用型除草機”に生まれ変わる予定です。今まではエンジン付きとは言え歩行型除草機でした。泥田の中を毎年 60～70 ㎞歩きましたが、きつい仕事で、見た目にも後継者の娘にも歓迎され難い作業です。本格的な乗用型除草機は夢でもありました。草が生え難い田んぼも出現していますが当分除草機は必要な道具です。

春を振り返り･･環境汚染を思う。

4 月上旬、これから 4 ヶ月間は稲作り本番です。種まきから育苗、本田準備、6 月半ばまでの田植、そして 7 月初めまで繰り返す除草。これらを経て 7 月下旬には今年の収穫が判明します。後は水管理と畦草刈りとなり緊張から解放されます。一般の慣行栽培は 5 月の田植が済めば、除草剤を撒いて終了です。
農薬（殺菌、殺虫、除草剤･･･）を一切使わないで稲作りを成功させるには、年間を通した一つ一つの作業で決まります。稲刈り後の耕し方でも田んぼの状態で違います。現状を観て判断して集中しながら耕します。

年間のどの作業も次のステップに影響しますから相当に真剣です。その結果病気の発生が無く害虫や草の勢いも抑え農薬に頼らない稲が育ます。
私は思っています。将来いつとは言えませんが命と健康を優先する政治が始まるとき、生き物と共生する有機農法など国は本腰を入れて推進する事になると思います。そう言う農法が必要な社会環境になる筈です。
現在の深まる化学汚染の影響は、この 30～40 年の間、人や生き物への影響の拡がりは止めどなく進行しているからです。殺虫剤など人に結果が出るのは 10 年後ですから“予防原則”しか有りません。小さな生き物が異変を起しているときは人にも完全に赤信号なのです。結果が出てからでは遅いのです。また免疫が下がり様々な病気や症状を訴える人が多くなっています。当然放射能の影響も受けやすい体質になって行くでしょう。
脱原発の緊急性は国民的であり人類の危機として理解できる事態になりましたが、脱農薬も現状では同じ筈です。今まで化学汚染が日常的に進行していた訳ですが、3.11 以降放射能が一挙に放出され恐怖の世界に変えてしまいました。今はもう化学汚染と共に放射能汚染も知らぬ間に“忍び込んで来る”のです。せめて農薬だけでも一人一人の農業者の自覚で使う事を断念すべきだと思わずにはいられません。
付け加えれば、国は輸入依存で国内農業を閉ざすのではなく食の安全と健康、そして子供の未来の為に、脱原発と共に時間は掛かりますが脱農薬を目指し日本農業建て直しの舵取りをすべきです。
私達有機農家は自分の“生き方”として困難を承知でやって来ました。国が本腰を入れれば少しはお手伝いが出来るつもりです。

合鴨との有機的関わり

ことしも無事に合鴨農法は終了しました。彼らに働いてもらったのは大きく深い田んぼで宿根性の草が繁茂している場所です。品種は主として「酒米」で、来春には合鴨純米酒が専用の酒蔵で醸造されます。当の合鴨たちは 11 月下旬から随時食肉処理して行きます。皆さん方のご参加をお待ちしています。生き物を頂く事のありがたさを実感できます。

○　後継者紹介

皆さんこんにちは。娘の瑛恵（あきえ）です。動物医療を短大で学んだ後に、昨年栃木県にある民間稲作研究所で一年間有機稲作の研修を経て、今年 4 月から家に入りました。まだまだ未熟者ですがよろしくお願いします。現在お米の出荷・発送を主だって担当しています。6 月から 9 月の時期は気温が高く、お米に虫がつきやすくなってしまいます。引き取りに来てくださる方は、早めに足をお運び下さい。また、お米に虫が付いた場合はご連絡下さい。

(草刈中)・自走式草刈機